4月7日（土）、第2回都内花見ランを実施。昨年の花見ランでは都内南部地域を走ったので、今年は北部地域を中心に企画。本日は王子駅→飛鳥山→名主の滝→古河庭園→染井霊園→六義園→道灌山→谷中墓地（解散）の約15kmのコース。

参加者は青山（旧姓鈴木）、鈴木（幸）、浅賀、遠山、中村、森田、小生（長田）の7名。今回のランは、鈴木（宏）の帰国歓迎ランのつもりで企画したものであったが、当の本人が帰国直後の多忙を理由にキャンセル。ちょっと残念だったが、機会はまだまだある。

また、この季節で一番の困るのが、何を着ていこうかということだ。朝晩はまだ冷える、どうしようかと結構迷う。今回は、真冬用のプレーンジャージでは昼間は暑いし、半そでのジャージじゃ寒かろうし。迷いに迷って、ヒートテックのインナー上下に、長袖ジャージ、サーモタイツにウインドブレーカーといういでたちに決定。しかし、駅まで走る間、けっこう寒くて、プレーンジャージをとりに帰ろうかと思うことしばし。

図1　飛鳥山公園

京浜東北線王子駅に9時集合。早速、駅から5分ほどにある飛鳥山へ。飛鳥山は徳川吉宗が江戸っ子の行楽の地として桜を植えたのに始まる。当時、桜の名所では「酒宴」は禁止されていたが、ここ飛鳥山では容認されていた。現代の花見スタイルの発祥の地というところ。約650本の桜があるそうだ。満開の桜は見事というほかない。時刻が早いせいか桜を見ながらゆっくり歩けて、今年初の桜を心ゆくまで満喫できた。花見につきものの酒宴がないのもなかなかよいものだ。

図２　名主の瀧公園

　次に名主の滝へ向かう。途中、王子の地名の由来となった王子神社、王子稲荷神社に立ち寄る。王子稲荷神社は、「東国三十三国」の稲荷の頭領であり、落語「王子の狐」に縁のある神社だ。参道の狛犬がわりの狐が大変かわいらしい。ここには狐の棲んだ穴があるとのことで、見物に行く。社殿の裏手にある崖の中腹に、それらしき窪みはコンクリートで固められてあった。狐といえども、さすがにここには住めないだろう。ちょっと狐につままれた話。さらに、名主の滝へ。

名主の滝公園は、江戸時代、王子村の名主が屋敷内に滝を開き、人々に開放したのが始まりとのこと。名主クラスでもこれほどの屋敷を構えられたのだ。農民といえども、かなり資力があったのだろう。ここには４つの滝がある。そのうち男滝のみ流れがあり、他の滝は涸れていた。ポンプでくみ上げて循環させているのだ。崖をつくっているは多摩川のつくった武蔵野台地で、約 10 万年前にできた。その上に関東ローム層（火山灰）がのっており、その間から水が湧出していた。市街地化がその水脈を絶ってしまったのだ。都市は地上のみならず、地下まで環境を激変させてしまったのだ。ここで、遠山氏が王子稲荷神社と関係の深い神社があるので行こうという。しかし、マニアックによく知っているものだ。

ここから、JR をこえて 1km ほどの装束稲荷神社に向かう。大晦日、除夜の鐘とともに「大晦日狐の行列」がここで装束を調えて、王子稲荷へ繰り出すのだ。一度見てみておく価値がありそうだ。ただ、大晦日というのがちょっとネックになりそうだ。次は古河庭園だ。

国指定名勝
都立
旧古河庭園
旧古河庭園

図３ ４ ５ 古河庭園

さあ走ろう。北区区役所前に出て音無橋をわたり、明治通りを西ヶ原の一里塚、財務省印刷局前を素通りして古河庭園に。古河庭園は陸奥宗光の屋敷跡。ニコライ堂や根岸の岩崎邸をつくったコンドルの設計。バラで有名な庭園だ。建物は石造りで、池之端にある岩崎邸の木造とはまた違った洋館の雰囲気が漂う。ここでは桜はあまり主役ではないようだ。庭を一望できる展望台で、日向ぼっこかねて昔話しに花を咲かせる。

駒込駅前で昼食を済ませる。ランにいったとき最近気をつけていることがある。昼食は米をしっかり食べることだ。以前はソバのような軽い食事で済ませていたが、2 時を過ぎるとガックリ体力が落ちるのが自分でもわかる。そこで、食欲がなくても米をしっかり食べるようにしたら、そういうことがなくなった。皆さんもランに行ったらご飯をしっかり食べよう。

図 ６ 染井霊園

昼食後、花見ランのメインイベントの一つ染井霊園へ向かう。染井霊園のある土地は、日本の桜を代表するソメイヨシノの発祥の地だ。ただし、それをうかがわせる遺跡・遺物はどこにもない。霊園内に入ると満開の桜の古木が出迎えてくれる。ここには岡倉天心、二葉亭四迷、高村光太郎・千恵子らが眠る。かつて、ここで私の業界とも縁の深い日本の人類学の祖ともいえる坪井正五郎の墓をみつけたときは、ここに葬られているのだと感激したものだ。隣の敷地には北島康介が練習本拠をおく東京スイミングセンターの巨大な建物が立つ。以前来たときには、さくら湯という温泉施設があったはずなのだが、敷地に吸収されてしまったのか、見当たらない。

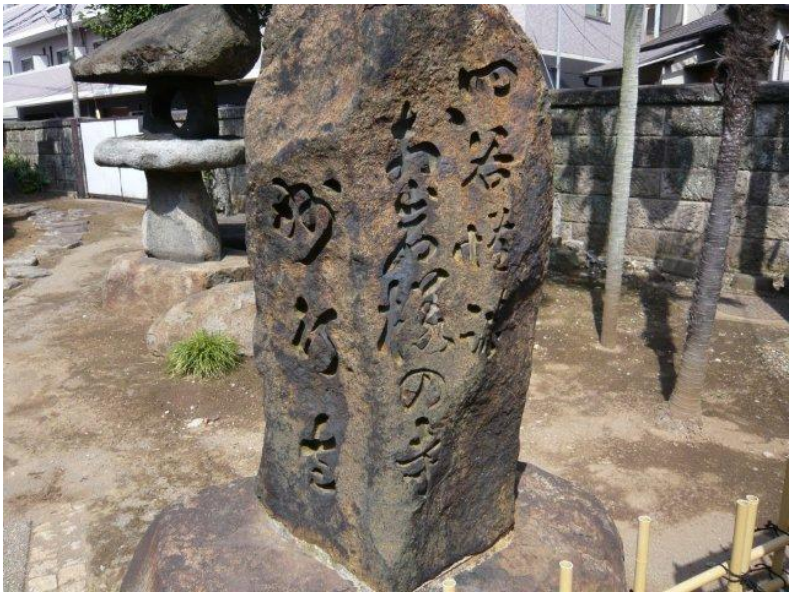

図7、8　妙行寺お岩さんと都電荒川線

花を満喫していると、またまた遠山さんがこのそばにお岩さんの墓があるというので、ちょっと寄り道、お岩さんの墓がある西巣鴨の妙行寺に。お岩さんのお墓は四谷の於岩稲荷田宮神社にあると思っていたので意外な感じ。墓地の一番奥にそれはあった。さすがに写真に撮るのは遠慮したほうがよさそうだ。それより、墓に向かう参道に、瑤泉院と書かれた墓標様のものを発見。瑤泉院は浅野内匠頭の奥方で、高輪の泉岳寺に葬られているはずだ。ここに墓があるわけないので、やはり両国にある回向院のねずみ小僧の墓と同様に、演劇関係者が建立したものだろうか。ねずみ小僧の墓は南千住の回向院にある。

いよいよ六義園に向かう。白山通りを南下、老人の原宿とげ抜き地蔵を右手に見なが

ら（そろそろ私たちも仲間入りの年齢ではあるのだが）、巣鴨駅を通り過ぎ左折。駒込にある六義園へ。六義園は 5 代将軍徳川綱吉の側用人・柳沢吉保がつくった大名庭園。枝垂れ桜が有名だ、垂れ下がった枝先一本一本に花があふれんばかりに咲き誇っている姿は一見の価値がある。数年前、六義園の枝垂れ桜を見に行ったとき、大行列で待たされた記憶がよみがえる。やはりこの杞憂は実現となった。大行列。入園はあきらめざるを得ない。裏手に回れば塀越し見えるのではないかという声も、ナビ氏の耳にはとどかないようだ。さっさと次の目的地に走り出してしまった。

図 9 10 谷中墓地と道灌山開成高校近くから見たスカイツリー（小さく写っています）

次の目的地は道灌山。本郷通りから不忍通りを走り田端駅方面へ。かつての田端文士村（大森にも文士村があり、同様に見晴らしのよい地形のところにあった。現在は家が

建て込んで、昔日の面影は微塵もない）があったといわれる崖際の小路を通り、開成高校の脇を通って目的地に到着。道灌山は、江戸城をつくった太田道灌が出城をここに設けたということからこの名があるとのこと。しかし、後北条氏の時代にこの地に割拠していた関 道閑という土豪の名とすり替わったものらしい。そうなると、日暮里駅前の道灌像はどうなるのか。それにしても、見晴らしはよい。ここでの標高は約 20m。縄文時代にはここから見渡している家並みは、みな海の中だ。見晴らしを考えると、城（砦）があってもおかしくない。ここも名主の滝をつくる台地の延長上にあり、地形のできかたは同じで、JR のおかげでよく地形が保たれている。道灌山からは公園脇の小道を道なりに進む。日暮里の夕焼けだんだんを右手に見ながら、朝倉彫塑館前を谷中霊園へ。

人の流れに従って左折をすると、谷中霊園の五重塔跡に出た。谷中霊園には上野寛永寺の墓所も含まれる。五重塔前のメインストリートは、花見の客でごった返している。自転車をころがしながら、人をさけつつ、桜をながめる。まったく花見をする人を見に来ているようなものだ。そぞろ歩きをしていると天王寺にでた。特別有名な寺ではないが、小ぶりだが落ち着いた瀟洒な寺だ。ここで来年の花見ランの相談、武蔵野方面にしようということ決めて午後 3 時ごろに解散。赤羽に車を置いてきた車組は、隅田川に出て花見をしながら赤羽に向かった。いつもの城南 3 人組は、上野付近の人ごみに翻弄されながら、一路自宅に向け約 20km の道を快走？

図 11 千鳥ヶ淵（行列の隙間から辛うじて撮影）

後日談ではあるが、千鳥ヶ淵の桜を見て帰るといっていた森田氏は、まったくかの地に近づけなかったとのこと。わたしもあちこち桜の名所を見てきたが、都内では千鳥ヶ淵の

桜がどこよりもすばらしい。昨年は対岸の道を、自転車をころがして見物したが、やはり城内は自転車で近づくのは難しいようだ。来年こそは歩いてゆっくり見に行くことにしよう。

【おまけ】

4月1日利根川右岸旧大利根チサン CC（向かい風が激しく土手を転げ落ちそうだった）

利根運河サイクリングロード

（とても走り易くお勧めです。昔利根川から江戸川へ野田の醤油を運んだらしい）